



竹中 秀夫 議員

入学祝金の支給

Q 全児童に小学校入学祝金を支給する意向を問う

A 限られた財源の中ではあるが、検討していきたい

小学1年生入学児への入学祝金支給

問 町政運営の柱のひとつとして、町長は「福祉と教育に力を注ぐ」、教育長も「福祉を語らずして教育なし」と言っておられる。昨年より、町内小・中学校の増設にも取り組み、大変喜ばしいことであるが、さらに教育・子育て環境の充実の流れを磐石にするためにも、他の市町に先駆けて愛荘町独自の施策が必要であると思う。

①1歳～小学6年生までの生活保護家庭の対象児、小学1年生～6年生までの就学援助費対象児は、それぞれ何人か。
②生活保護家庭の児童の学費に関係するもので、1人に対してどれくらいの金額を支給しているのか。
③就学援助費の1人に対する支給額はいくらか。
④小学校入学児童への各々の対応はどうか。

答 (地域福祉課長)
①4月1日現在、1歳～小学6年生までの生活保護家庭の対象児は18人(0.6%)である。



河村 善一 議員

愛知中の建替え工事

Q 建替えには思い切った投資を

A 優位な人材育成のため、必要な投資は行う

愛知中建替え工事

問 ①町内・町外の中学校に入学された人数は何人か。
②素晴らしい環境での教育、部活動ができる学校を建設すべきと考えるが。
③設計業務の現在の進捗状況は。

④教師のモチベーションが上がる職員室、生徒が明るく学習したくなる教室を求める。
⑤毎日学習し、生活する場所の学校に思い切った投資を。

答 (教育長)
①平成29年4月に入学した生徒数は、愛知中1277人、秦荘中91人で、町外の中学校に入学した人数は14人である。
②施設・設備の環境、教育に携わる人的環境、部活動を含めた内容環境を整える努力をしていく。
③校舎整備の基本的な考えのもと、現在町長部局と調整中である。

答 (町長)
④設計段階において、生徒・保護者・教員の意見を可能な限り反映し、整備を進める。

⑤愛荘町教育大綱や愛荘町教育振興計画に基づき、安全・安心な教育環境の整備と併せて、愛荘町の将来のまちづくりを担う優位な人材を育成できる環境を整えるため、必要な投資は行う。

ごみ処理施設

問 平成39年度の稼働を目指す彦愛大地域のごみ処理施設について問う。

①ごみ処理施設の候補地として、竹原に決定したのか。
②周辺自治会と町民への説明をどうしていくのか。

答 (町長)
①6月26日開催の彦愛大広域行政組合臨時議会で、新ごみ処理施設の建設候補地が竹原地区に決定され、6月27日付で「彦愛大地域ごみ処理施設建設候補地の決定」の通知文書が出された。
②7月17日には竹原地区々民説明会、8月27日には常安寺地区の区民説明会を開催し、彦根市長とともに出席した。説明会で伺った、「通学路の安全問題、パッカー車の搬入経路、環境問題への懸念」等の意見を、今年度策定される施設整備基本計画に盛り込んでいくようにしていく。

獣害対策

問 ①現在の有害鳥獣駆除事業で、効果ある駆除対策ができているのか。
②有害鳥獣の被害の現状はどうか。
③数年前に出来た電柵は限界にきているのではないが、更なる補助は考えていないか。

答 (産業建設部長)
①野生鳥獣による被害は、経済的被害のみならず、農林業の経営意欲の減退や耕作放棄地の増加等の深刻な問題となっている。
サル・イノシシ・シカ・カラスの駆除を愛荘猟友会に委託している。猟友会の管理のもと、「箱わな」「くくりわな」を設置し、農作物の被害防止に努めている。
②斧磨・上蚊野・岩倉の3集落の稲・野菜の被害総額は、農業共済組合の報告では合計約280万円である。
滋賀県全体では、被害面積、



獣害防止の電柵

被害金額ともに過去5年間で減少傾向となっている。
③今後も中山間地域等直接支払事業を中心に各集落で獣害対策に取り組み、要望があれば県の補助事業の里山リニューアル事業も活用していきたい。

答 (教育管理部長)
①小1～小6までの、要保護・準要保護児童生徒の認定者数は、148名(10.05%)となっている。

答 (地域福祉課長)

②小学生の児童1人あたりに対し、基準額・PTA会費・学習支援費・給食費など年額で約11万円支給される。

答 (教育管理部長)
③小学生への就学援助については年間で、

・小1 76,510円
・小2～小5 58,780円
・小6 79,380円
となっている。

答 (地域福祉課長)
④生活保護制度では、入学準備金として小学生児童1人あたり40,600円が支給される。

答 (教育管理部長)
④全入学児に対しては、学習に必要なノートのセットを入学祝として渡している。

問 子育て環境の厳しい状況におかれている家庭が多くあると思う。そこで、子どもの小学校入学は保護者にとり町全体の喜びであることから、全家庭・全児童に対して入学祝金を支給することがこの町の活気につながる、未来へのまちづくりにつながると思うので、教育長、町長の意向を尋ねる。

答 (教育長)

町の宝である子どもの小学校入学を一律に祝うことは大変重要である。本町は他市町に先駆けて中学生までの医療費を無料化した町であり、本町が先駆けて実施することは、「人にやさしい町、子育てしやすい町」としてアピールすることになり、この町の繁栄につながると思う。町長部局と協議し、検討していく。

答 (町長)
義務教育入学時の入学祝金については、民間企業や地方公共団体では、社員・職員の福利厚生事業の一環として入学祝金制度を創設しているところが多くあるものと思っている。小学校入学祝金につ

いては、人口減少社会の到来と次代を担う子どもたちが今後、減少していく中で、人口を維持する方策としては良い施策ではないかと考える。県下の状況を調査するとともに、民間企業との均衡も考慮し、他に何かできることはないかなど、限られた財源の中ではあるが検討していきたい。



小学校入学式の様子